

「神戸女学院の 100 冊」は、神戸女学院大学の全教員が専門分野の学びの基礎となる書籍を選び、編み上げたものです。3 学部 5 学科の、人文科学、社会科学、自然科学から芸術にわたる 19 分野に分けられた本たちはすべて、本学でリベラルアーツを学ぶ大学生の道標となり、新たな世界への扉を開いてくれる珠玉の一冊ばかりです。

本年度の書評コンテストより、高校生部門を廃止し、大学生のみの応募と致しました。これは、本来の「100 冊」の目的が、本学においてリベラルアーツを学ぶうえでの手がかり、道標となるということでありましたので、原点に立ち返ろう、ということでもあります。

今年度は、全学より 5 名の応募がありました。5 名とも大変熱のこもった書評を書いていただきましたが、各分野の先生方に慎重にご審査いただき、結果、3名の学生さんがそれぞれ、優秀賞、佳作に選出されました。

宗教学分野で佳作に選出されました川村さん、女性学分野で優秀賞に選出されました峽戸さんのご書評からは、書籍の内容を自分の知とし、それをご自身の実体験などと結びつけて考えられる高い共感性が感じられました。また、英米文学文化部門で優秀賞に選出されました奥田さんのご書評からは、文学作品への造詣と、それを、社会的・個人的価値観および倫理観へと結びつける力を感じることができました。ご自身の考察を展開する能力など、高く評価する点もありましたが、個別のテキストの読み、文章表現などでもう少し深めていただきたい部分もあり、今回の評価につながったものと理解しています。

今回受賞された皆さんのみならず、他の学生さんにとりましても、読書体験は文章力、考察力、問題解決能力も向上させてくれる、重要なツールだと考えます。これからの大学生活において、「100 冊」のみならず、広く、読書体験を持っていただけることを期待します。最後になりましたが、受賞された皆さんに、改めておめでとうの言葉を贈りたいと思います。